

# 昭和41年度 土木学会誌掲載懸賞論文募集

土木学会誌編集委員会では明春新年号（第52巻第1号）掲載の下記論文を懸賞募集致します。各位練成のうえより多く応募されるよう御案内申し上げます。

## 記

### 1. 主題および論文内容

#### (1) 一般の部

##### 土木技術者教育に何を望むか

社会の進展、技術革新とともに、土木事業はいよいよ多岐にわたり、その技術の質もますます高度化しつつある。それは技術者を育てる教育への要望の質をおのずから高めることになる。一方において、高等教育の普及により、大学教育は戦前のエリート養成とは異なる性格を持ってきたともいえる。加えて若手技術者数の不足、技術者意識についてのさまざまな意見、学歴についての考え方の変化の兆など、教育問題は現在多くの議論を呼びつつある。この論文のテーマにおいては、もちろん土木技術者の教育という面からの建設的、具体的提案を期待している。ここにいう教育には大学院から工業高校、各種養成所をも含めた学校教育に加えて、さらに社会へ出てからの教育をもテーマの範囲に含める。論文は教育の全般的なものでも、特定部門の教育に関するものでも構わない。しかし多くの土木学会会員の関心をひくものであることが望ましい。

年令を問わず、職場のいかに問わず多数の応募を期待する。

#### (2) 学生の部

##### 土木技術者としての抱負

学窓を出て、研究、計画、工事などの現場へ出てからの土木技術者としての生き方、抱負、プログラムを募る。日本の社会はこれからの土木技術者に何を期待しているのか、それに対して自分はどう立ち向かおうとするのか。今後の社会は大きな変革が予想される。したがって、これからの明確な見通しはむずかしいかも知れぬ。そうなればこそ、大きな方針を立て、抱負を整理してみる必要度が高いともいえる。空虚な強がり、妄想、もしくは絶望感ではなく、土木技術者の卵としてよく練られた抱負を期待している。

### 2. 応募資格

土木学会会員に限ります。

### 3. 応募要領

応募者は、一般の部、学生の部いずれかの主題を選び応募して下さい。学生会員は一般の部へ応募してもかまいません。なお応募に際しては、論文用紙とは別に、氏名、年令、生年月日、勤務先、同職名、自宅住所、連絡先、電話番号、会員資格を明記した別紙（本票裏面に印刷）を添付し、＜懸賞論文応募原稿在中＞と朱記して下さい。

### 4. 原稿用紙および制限枚数

原則として土木学会誌原稿用紙（40字詰横書き）を使用していただき、20枚以内にまとめて下さい。原稿用紙は郵券50円同封のうえ、東京都新宿区四谷1丁目土木学会編集課あて御申込み下されば御送りします。

### 5. 原稿締切り

昭和41年10月15日（厳守のこと・郵送の場合は10月12日の消印まで有効）

### 6. 審査および発表

土木学会誌編集委員会が審査をなし、結果を会誌第51巻第12号に発表、あわせ第一席作品を会誌第52巻第1号誌上に掲載します。

### 7. 賞品

一般の部、学生の部各論文に対しおのおの

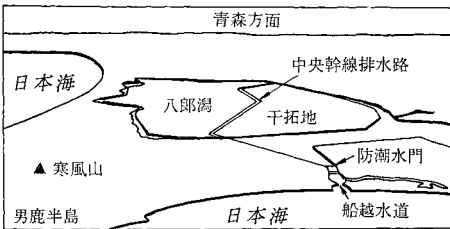
- 一 席（一名）：本賞・賞状／副賞・賞金 30,000円
- 二 席（一名）：本賞・賞状／副賞・賞金 15,000円
- 三 席（二名）：本賞・賞状／副賞・賞金 5,000円

本件に関する質問は、往復ハガキまたは電話（東京351-5130番）にて、土木学会誌懸賞論文募集係まで照会下さい。

## 昭和 41 年度土木学会誌登載懸賞論文応募票

区 分	一 般 の 部	学 生 の 部
論 文 名		
原稿用紙 枚 数	枚	
氏 名		
年 令		
生年月日		
勤 務 先 住 所 職 名 および電話		
自 宅 住 所 および電話		
会 員 資 格		
連 絡 事 項		

# 八郎潟干拓の干陸終了

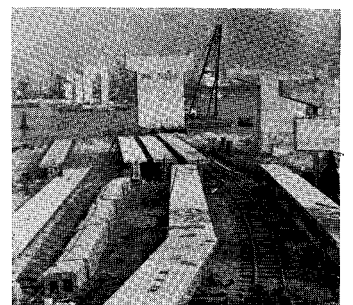
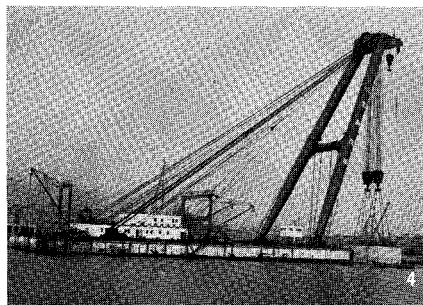
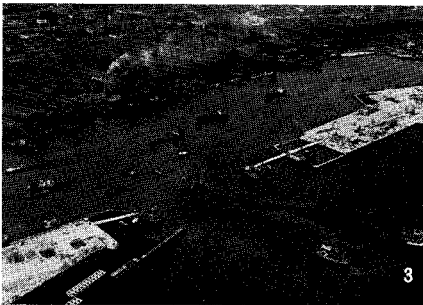
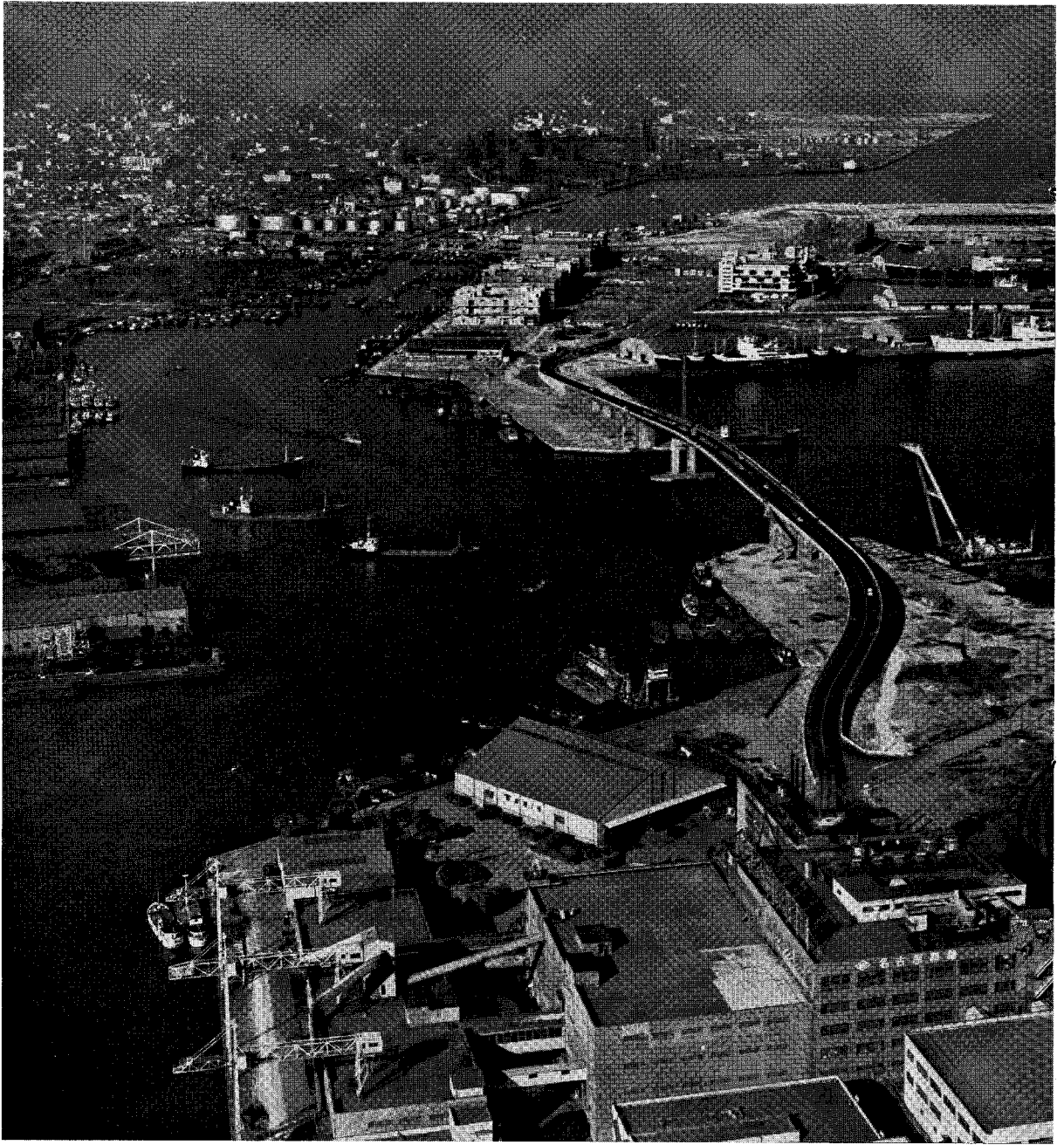


写真位置説明図

最近まで琵琶湖についてわが国第2位の湖であった八郎潟は、昭和32年農林省の直轄事業として干拓に着手され、昭和41年6月現在中央干拓地全面積15,870haがその姿を現わしてきた。

八郎潟干拓事業は、潟面積22,173haのうち中央部15,870haと、潟周辺の1,560haを干拓地とするもので、370億円の総事業費を費やし、今回の作業終了を迎えたものである。

今回入植者を募集することとなった新しい農場の広さは、東京の山手線の内側がほぼ三つ入ってしまう広さで、10年後この干拓地が稲田になったとすれば、約6万t(100万俵)の米が生産されることとなる予定である。本文ニュース欄参照。



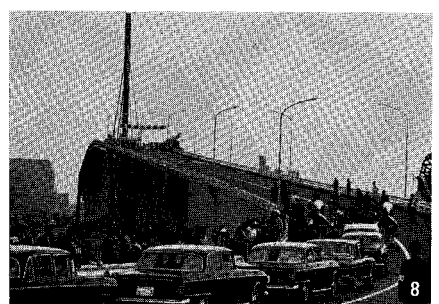
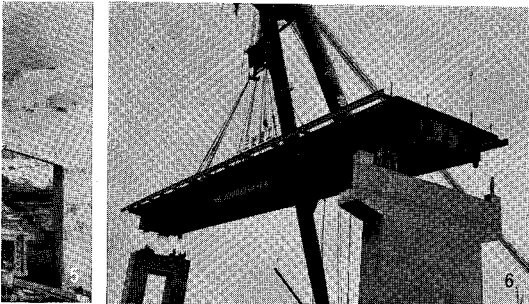
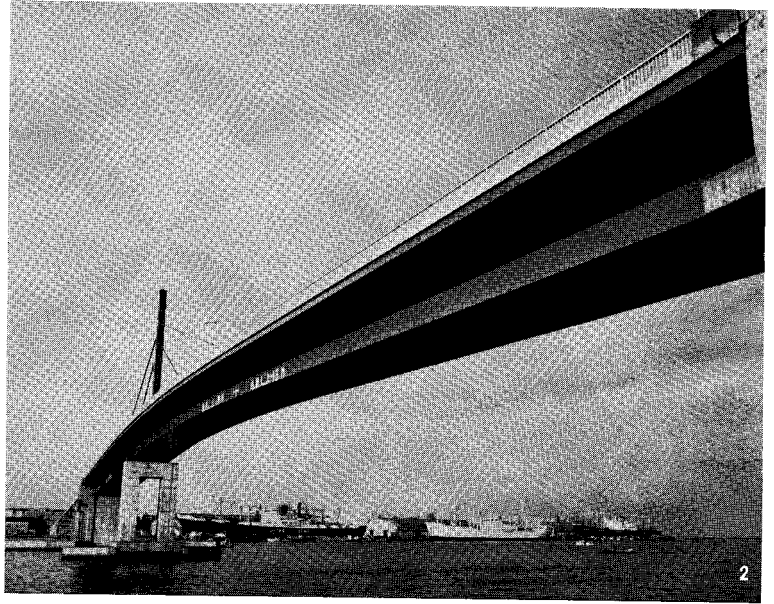
# 摩耶大橋完成

4 突堤 18 バースの摩耶ふ頭（建設中）と従来の港湾の中心であった新港突堤群との間に、このほど摩耶大橋が完成した。本橋は全長 510.2 m、支間 139.4+69.4 m、幅員・中央部 14.0 m の一等橋である。詳細については、本文ニュース欄を参照されたい。

## 写真説明

- 1,2 竣工後、新港 8 突堤側より摩耶大橋、摩耶ふ頭を望む
- 3 中央部三橋脚ニューマチックケーソン施工状況
- 4 1 000 t 起重機船の作業状況
- 5 新港側から橋脚群をみる
- 6,7 橋体第 1 ロッド（約 73 m）架設状況（摩耶側よりみる）
- 8 6 月 2 日・開通式状況

写真提供・神戸市港湾局



## 中央西線名古屋～瑞浪間 複線電化供用開始

明治 44 年度全通以来中京～信越間の大動脈として活躍してきた同線の輸送力増強のため、かねて工事中であった標記工事がこのほど完成した。このことにより中央線全線電化も間近に迫ってきたことが感じられる。詳細は本ニュース欄を参照されたい。



土木学会責任編集による待望の年鑑、いよいよ10月末発刊!!

# 土木年鑑

# 1967



社団法人 土木学会 土木年鑑編集委員会編  
編集委員長 八十島義之助

B5判上製箱入/特縫クローズ装/550頁/口絵写真30葉/本文中写真・図版400葉  
予価 3,500円

## ●<土木年鑑> 発刊にあたって

土木年鑑編集委員会 八十島義之助  
委員長・工学博士

土木学会では創立50周年を記念し、最近10カ年間の主要工事を写真を中心に解説した「建設/創造/技術」を編集した。また土木学会誌では数年前から毎年12月号を「回顧と展望」の特集にあて、その年に果たしてきた事業と成果を展望している。これらが背景となって土木界とその関連産業を網羅した《土木年鑑》を作ろうとの機運が次第に高まり、数次にわたる準備委員会の検討を経て編集委員会が組織され、具体化へ一歩ふみ出すこととなった。なるべく安価で美しく、日常の業務に便利なことを主眼に編集方針を決定し、委員、幹事、学会事務局、出版社が一体となって編集作業を行なった。

過去何十年間かにはわたる技術の集積が今日の発展に連なることを思うとき、年度ごとに成果を整理・分析・解説して「年鑑」の形で残してゆくことは、技術向上への指針のみならず、土木工学に対する社会の正しい評価をわれわれが要求する上にも大いに役立つのではないかと、とも考えている。

良い年鑑を作るため、御意見があればどしどし編集委員会に寄せて頂き、土木技術者全体の力で作り上げた年鑑となるよう皆様の御支援を切望している。

## 本年鑑の5大特色

### ①広い視野に立った編集方針

単に土木分野全般の記述だけでなく、経済・法制・財政・企業計画・他産業との関連などを捉え、総合的な展望をもおこなった編集

### ②斯界の権威を網羅した編集・執筆陣

土木学会がその総力を結集し、斬新緻密な構成にもとづいた各専門分野の権威者による執筆

### ③豊富な内容、系統だった分類

各部門ごとにあらゆる事象を網羅し、正確な統計および図表を付し、詳しい解説をおこなった土木界のすべてを通覧できる唯一の年鑑

### ④見て楽しめる年鑑

新鮮な口絵写真、わかりやすい図版および解説写真を豊富に使用し、視覚的な面にも留意した編集

### ⑤美麗・堅牢な造本と鮮明な印刷

頻繁な使用、永年の保存にも耐えられる、厳選された資材・印刷・製本

# ●土木建設界のすべてを系統的に鳥瞰できるわが国唯一の年鑑!!

## 本年鑑の構成

### 口絵写真

### 第1編＝論説

### 第2編＝展望

- ①社会の動き 世界の動き／国内の動き／本年のトピックス
- ②行政と事業 建設行政の動き／事業と予算
- ③建設産業 産業界の動向／建設業／コンサルタント業／地質調査業／橋梁およびPC業／建設資材業／建設機械業／測量業／水処理／本年のトピックス
- ④工学と技術 研究および研究機関／技術および事業各論／技術導入
- ⑤教育および技術者 教育および技術者／技術者問題
- ⑥海外協力

### 第3編＝工学技術および関連資料

- ①計画 代表的な長期計画のマスタープラン
- ②研究および技術 基礎技術・応用技術
- ③特許・実用新案
- ④出版および技術論文 新刊図書／技術論文／報告書
- ⑤会議等
- ⑥各部門の動向 建築部門／運輸・通信部門／材料部門／機械部門／その他の部門

### 第4編＝事業

国土計画・地域計画／道路／鉄道／都市計画・土地造成／上下水道・工業用水道・水資源／治水・治山・海岸／港湾・漁港・航路標識／空港／発電施設／土地改良・干拓／防衛施設／観光とレクリエーション施設／工場施設／建築／災害／海外事業／諸調査

### 第5編＝資料

国土・人口／建設事業量／治水・治山・海岸／道路／鉄道／港湾・漁港／都市計画／上水道・工業用水道・下水道／災害・災害復旧／コンサルタント・測量／建設業／建設機械／建設労務／建設資材／積算・諸掛／工事価格・土地価格／一般経済／主要土木施設／新法令解説  
付：大学講座別教官名簿／研究施設

## 本年鑑の編集委員会 (五十音順)

### 委員長

八十島義之助 東大教授 工学部土木工学科

### 副委員長

片山祐一 財団法人建設技研・理事

### 委員

- 阿部泰彦 科学技術庁資源局
- 池原武一郎 国鉄建設局線増課長
- 内山諫 建設省計画局調査統計課長
- 大迫公克 防衛施設庁建設部土木課
- 大橋文雄 厚生省環境衛生局水道課長
- 帯猛 建設省河川局河川計画課専門官
- 川越達雄 建設省計画局建設振興課専門官
- 北川博正 住宅金融公庫企画調査部長
- 久保赳 建設省都市局下水道課長
- 小出梅雄 電々公社建設局土木課長
- 篠原登美雄 運輸省港湾局建設課長
- 杉田栄司 農林省農地局建設部開墾建設課長
- 多田安夫 建設省土木研究所構造橋梁部長心得
- 竹内良夫 経済企画庁総合計画局計画官
- 玉村栄二 東京都首都整備局計画第2部長
- 竹間弘 中央大学助教授・理工学部土木工学科
- 豊田栄一 建設省道路局企画課長
- 永岡乙哉 通産省企業局工業用水課
- 林鋼太郎 運輸省航空局建設課長
- 樋口芳朗 国鉄鉄道技術研究所構造研究室長
- 日吉三友 大成建設(株)東京支店土木部長
- 藤井喬 西松建設(株)土木設計部土木設計課長
- 藤田圭一 (株)間組技術局技術開発課長
- 藤吉三郎 建設省大臣官房建設機械課長
- 増岡康治 建設省大臣官房技術調査官
- 松本繁樹 通産省公益事業局水力課長
- 村山幸雄 建設省都市局都市計画課
- 森茂 自営コンサルタント
- 森宜制 労働省産業安全研究所土木課長
- 山本安一 鹿島建設(株)土木見積部次長
- 吉橋三七郎 運輸省鉄道監督局民営鉄道部土木課長
- 幹事
- 市川芳忠 電源開発(株)水力建設部設計室
- 成瀬輝男 石川島播磨重工業(株)橋梁設計課
- 南部祥一 厚生省国立公衆衛生院衛生工学部
- 本山翁 建設省大臣官房技術調査官

●予約申込受付中！ お早やめに土木学会までお申し込みください。

# 土木年鑑 1967

社団法人土木学会・土木年鑑編集委員会編 B5判 予価 3,500円 ●内容見本呈 ●東京都港区赤坂6-5-13 鹿島出版会



黒四竣工3周年記念出版  
昭和40年度土木学会技術賞受賞

# 工事報告 黒部川第四発電所

関西電力株式会社 編集  
社団法人土木学会 発行

黒四の歴史は古く、大正時代から水力開発の先駆者たちによって調査が続けられてきたが、着工の決意が表明されたのは昭和30年である。丸山、佐久間などをはじめとする大規模水力地点は機械化施工の採用によって、従来の開発方式を大きく変換しつつあったときである。

このような水力開発の技術革新を背景にして、黒四はスタートを切ったのであるが、186mの高さの大アーチダムをはじめとする画期的な施設を北アルプスの奥深くに建設することは前例のない大工事であった。

数多くの特殊研究から生みだされた最新の技術、建設機械、施工方法が本書にはもれなく記述されているのでぜひご覧下さい。

内容：第1章 序論／第2章 計画／第3章 設計／第4章 施工設備／第5章 施工／第6章 人員／第7章 関連工事その他／第8章 特殊研究

体裁：B5判 1360ページ 付図36枚

定価：12500円（会員特価9800円・送料300円）

<御申込次第カタログ贈呈>

新刊発売・新潟地震2周年記念出版

# 新潟地震震害調査報告

土木学会新潟震災調査委員会編

昭和39年6月16日、突如新潟市を襲った地震は多くの災害をもたらした。今から43年前東京を襲った関東大震災とは別な意味で砂地盤の流動化という特異現象をもたらした災害として大きく浮び上ってきた。

文化がすすみ、人間の生活が高度化するにつれ、その被害には今まで例をみなかったものがある。土木学会では新潟地震の襲来とともにいち早く調査委員会（委員長 岡本舜三教授・東京大学生産技術研究所長）を組織し、被害の調査をはじめ、その原因、事後対策などを総論、地震、土質・地質・地盤変動、道路、鉄道、河川、道路橋、鉄道橋、港湾・漁港・空港、電力施設、衛生施設、農林土木、建築、通信施設、工場災害などの面からとらえ、詳細に診断した。今後の都市計画等の参考資料としてぜひご一読下さい。

体裁：B5判 904ページ 図表、写真多数、特上製本

定価：10000円（会員特価9000円・送料300円）

<御申込次第カタログ贈呈>

申込先 土木学会 TEL 351-5130（編集直通）  
振替東京 16828番

好評発売中！



土木学会創立 50 周年記念出版

# 日本土木史

—大正元年～昭和15年—

土木学会編

日本土木史編集委員会がその総力を結集して企画編集にあたった日本土木史（大正元年～昭和15年）は昨年暮刊行され非常に好評をえております。しかし、価格の点で足ぶみしておられる方もあると思いますが、その内容、ぼう大なページ数からいえば決して高価な本ではありませんし、将来必ず必要にせまられる本ですのでお早めにお申込み下さい。再版は不可能の限定版です。

体 裁：B5判 8ボ横一段 本文 1733 ページ 図 410 葉 表 500 点  
写真 150 枚余 上製箱入背革製の豪華製本  
定 価：12 000 円 <御申込み次第カタログ贈呈> (送料学会負担)

## 人工軽量骨材コンクリート設計施工指針（案）

人工軽量骨材が叫ばれてからすでに数年……土木学会ではこの新しい人工軽量骨材を用いた、軽量コンクリート部材の設計および施工において、とくに必要な事項について一般の指針として標記の図書を刊行しました。本書はつぎの章および付録よりなり、一般技術者必けいの書ですのでぜひご利用下さい。

内 容：1章 総則／2章 軽量骨材／3章 軽量骨材コンクリートの品質／4章 軽量骨材の取扱い／5章 配合／6章 練りませおよび運搬／7章 コンクリート打ちおよび養生／8章 試験／9章 設計に関する一般事項

- 付 録1 骨材中に含まれる粘土塊量の試験方法
- 付 録2 軽量粗骨材の浮粒率試験方法
- 付 録3 構造用軽量細骨材の比重および吸水量試験方法
- 付 録4 構造用軽量粗骨材の比重および吸水量試験方法

体 裁：B6判 50 ページ 定 価：300 円 会員特価：250 円（〒50 円）

お申込みは土木学会へ

新  
刊  
発  
売  
中